

# 話じやれ (20)

岐久 ようこ

お見合いさせたい

「もつと近よって」

メスのもとに呼び込みたい

あと数歩ゲージに寄ってくれたら

ハシビロコウは警戒心が強く

「なかなかお見合いが大変です」

と動物園

でも、時間をかけていくと

「毛繕い手伝おうか」

「ホラ、三つ編みできるほど伸びたわ」

「このイチヨウ指してあげる」

ゲージ内のメスが次第にうちとけて

「スゴモリもいいわね」

ハートが通じたのでしようか

飼育員もホッとして

しかし勝手なオスもいて

これからの楽しみだけを頭に編みこんで

三つ編みしおえたら  
サッサーとしたもの

ささくれだった爪でわざと

引っ掻いたりして

「毎日系モゴリじゃあね」と出て行った

求愛のシーンを期待して飼育員は

うまくいくよう、ひと月は見守ります

巣ごもりの 本家は鳥で あったはず

なのに 人もお家で 仕事ごもり



スタートに賭けよう

余分なものを着けない

ビキニ・スタイルでスタート

「パッタパタ」ハードルを跳び越える

際に足か太股が当たるのか

「フアイト！」10個のハードル

跳んでトップで走りぬけた！

女子百メートル・ハードルの

青木選手は前回の2年前に負けた

「どこかで差をつけられないか」

ラスト・スパートか

逆にスタート・ダッシュに賭けてみようか

そして優勝する

男子百メートル・ハードルの選手も

2年ぶりの優勝

2年ごとの世界選手権と五輪とを

「追い抜かれ」「追い返せ」ただ

東京五輪がコロナ禍で1年先へ

「ああ、3年ぶりとなるのか」

女子陸上ときたら福島千里選手が

百メートルの「表彰台」に載り続け  
テレビ会見を見続けてきたが、最近  
は「姿を見ないなあ」

いつかは 華麗走者も 加齢にて  
優勝台を 釣り上げられ 降りた？



雰囲気びったり

「走れない！」はがゆい夢の中

時間だけは走っていった

そんな飛ばした過去の映像や音声の

「アーカイブ」が盛んです

昭和35年頃から始まった

「夢で会いましょう」

司会者のミセス・中島さん

トップ・デザイナーが笑顔で

「こんばんは」ちよつと首かしげて

和服だったか洋装だったか

覚えてませんがポーズだけが

なぜか印象に残ってます

♪ 夜があなたを抱きしめ

夜があなたに囁く

永六輔作詞、中村八大作曲

自由にこれから伸びて

いこうとする歌手たち

「いとおしくて」

「子供たちみたい」そんな若者の

夢を包み込んで育む  
隠しポケット着けて

こう見えて デザイナーで ございます  
少し 斜めに構えて 「こんばんは」



## 台風の助け船

「3密になるからネ」

「避難所の収容人数を制限します」

これまでは行政の指定する避難所へ

例えば小学校とか公民館

「そうでした」が

「そうでない所へ避難する」

複数の選択

ホテルへ避難しますという

これもコロナ禍の流れの一端でしょう

鹿児島から南へ船が通う島々

三島村の388人のうち多数が

行政がチャーターしたフェリーで

鹿児島市内のホテルへ

ホテルでの4日間

「今迄なかったことで」

「でも安心だったわ」

台風の前奏曲みたいな

幕が上がってみると

「50年に一度」の

超大型の台風という予報だったのに  
荒れ狂うほどの雨風でなかった  
気圧だか何だか難しい理由で  
東シナ海から日本海へ抜けて

台風で 避難しましよか ホテル行き  
コロナに感染 ホテルに隔離され

